

「よし、しらなければ出して見せる。」

と、おつしやつて、力の強い蟻に、お腹をひどく押させました。すると、すつかり、とつてゐたお菓子が出て来ました。皆な押されました。みんな苦しい〜と泣き出してしまひました。すつかり出してしまふと、王様は、

「これは皆のものだから、皆で一しよに仲よくたべなければならぬ。さあ、皆、一しよにたべるんだ。」

皆はよろこんで、たべて、歌つたり、おどつたりしましたが。お菓子のこりは、お倉にしまつて置きました。

わるいことをした蟻は、王様の前でおなかを押されたのがよほど苦しかつたと見えて、二度と、そつと取るやうなわるいことはしなくなりました。

蟻の行列は、お座敷の庭で、毎日ありますの

で、よく耳をすませてきいてゐると、わいしよい

〜、えんやら〜どこかでいつてゐるのが聞えるやうでなりません。皆さんはお聞になつた事がありますか。おしまひ。 昭和五年七月二日

× × ×

### 敵討をされた猫君の話

土田 和雄

一、

ヨシ子さんのうちの近處に一疋の猫が住んでおりました。

この猫君、たいへん悪い奴です、ニハトリをひどいめにあはしたり、またお晝時や、夕ごはん時に、お魚の焼けるうまさうなにほひがすると、ふんふん鼻をならしながら、こつそりとお勝手からはいつてきて、お魚をもつていつてしまふのです、まだまだいろんな悪いことをたくさんしま

す。

ある日、ヨシ子さんのだいじな〜金魚が、この猫君のために、もつてゆかれました。

「まあ、可愛想に」さういつて、ヨシ子さんはなみだをながしてかなしみました。

「ヨシ子さん、なかなかでもない〜ですよ、また買つてあげるから」とお母さんが申しましたが、ヨシ子さんは金魚さんが可愛想でなりません。

「金魚さんごめんなさいね、あの憎い憎い猫め、いまにみるがい〜ひどいめにあはしてやるから、」  
ヨシ子さんは、おとなりの一郎君にはなしました。

「わたしくやし〜くつて〜ならないの、なんとかして金魚さんの敵討かたこううちをしてやらうと思ふの」ヨシ子さんがいひますと、

「よし僕が、い〜ことをかんがへてやる」と一郎君は、頭をかしげて「さうだ、い〜ことがある、

ねずみ花火を猫のとほる草やぶにかくしておくんだ」といひました。

「さうね、それは、うまい考へだわ」ヨシ子さんはすぐ一郎君の考へにさんせいしました。

二、

そこで、二人はさつそくせんかう花火を買つてきて、猫君のとほる、みちの草やぶにかくして見てゐますと、むかうの木のかげから、猫君、なにかいたづらがないかと、ノソリ〜とやつてきました。

「やあ来たぞ〜」  
「しッ!! だまつて〜」

二人はむねをドキ〜させてかくれてゐます、猫君、なにもしらずに、あたりをキヨロ〜くみまはしながら「やい變なほひがするぞ、」と、とつぜん、猫君の鼻はなのさきでシユ〜ポボンボン〜と花火がなりました。「ニャオ」と猫君は、とびあ

がり、だ、だれだ、なまいきな奴め、俺れはこんなことではおどろかないんだぞ」さういつて、こはい顔をして、二人をにらみつけました。

二人はこはくなつて、あうちの中へ逃げこみました。

せつかくのけいりやくもうまくゆかなかつたので、ヨシ子さんはざんねんでなりません、なんとかして、あの憎い猫めひどいめに、あはしてやらなければと、考へましたが、どうも、うまい考へはできません、これは兄さんに相談するほかにみちはないと、ヨシ子さんは兄さんのところへやつてきました。

「兄さん、わたしくやしうつて／＼ならないの、なんとか猫の奴め敵を討つ方法はないでせうか」とたのみました、すると兄さんは、

「よしよし僕が、いゝことを教へてやる」とさうそくひさうけてくれました。

さて、兄さんはいつたいなにを考へてくれたこととせう。

### 三、

こちらは猫君、今日もなにかうまいことがないかとソソリ／＼とやつてきます、見ると、金魚はちの中に、大きな金魚が三疋ばかりたのしさうにあよいでゐます。

「しめた、これはうまいぞ馳走だ」猫君は、「ニャオ」と一聲いつて、しばらくあたりをキョロ／＼うかがつてゐましたがこんどは、金魚のまはりを二三度ぐるぐるまはり、そつとはちの中へ手はいれました、と思ふと「ニャオ」といつて、手をひつこめました、そのひやうしにはちをひつくりかへし、頭から水を、ではない熱い湯をかぶつて大やけどです、金魚だと思つたのは、おもちゃでした。

ヨシ子さんと一郎君は障子のかけから手をうつ

て、はやしたてました。

「どうだ猫君、降参こうさんしたか」と一郎君がいひました。

「はいくもう決していたづらはしませんから、ゆるして下さい」と猫君は涙をポロ／＼こぼしてあやまりました。

ヨシ子さんは、かへつて猫君が可愛想になりました。

「いゝわ、もう悪いことをしなければゆるしてあげるわ」ヨシ子さんがいひました。

「はい、はい、決してしません／＼」と猫君はペコ／＼と頭を下げました。

ヨシ子さんは、うま／＼と金魚かたきやうちさんの敵討かたきやうちをすることをできました。

猫君もそののちはもういたづらをしなくなりすつかり、おとなしくなつたといふ話です。

